

みどりかがやく

人の役に立てるという気持ち

「暑さ寒さも彼岸まで」といいますが、だいぶ過ぎやすくなってきました。校地内の隅にイヌタデがみられます。イヌタデは初秋を表す季語として、歳時記に掲載されています。年配の方には「アカマンマ」や「アカノマンマ」といった方がなじみやすいかと思います。幼少の頃に行った、おままごとでは、貴重な赤飯の役を果たしてくれた植物です。

また、植物の名前では「イヌ」が付くと「役に立たない」という意味になります。「イヌムギ」「オオイヌノフグリ」などがそれに当たります。イヌタデも役に立たないタデという意味になります。では、役にたつタデがあるのか、ということになりますが、「タデ食う虫も好き好き」ということわざに登場するタデはヤナギタデのことで、ピリリとした辛みの成分があるので香辛料として役に立ちます。辛み成分がある植物を好きな虫がいるかどうかはわかりません。



校地内に生えるイヌタデ

さて、学校では新型コロナウイルス感染症の防止に努めながら教育活動を進めております。新人体育大会川越市予選会が9月25日（金）から、コロナ禍における制約がある中で行われました。各会場を訪問しましたが、2年生が中心となり活躍し、生徒の生き生きとした表情を見ることができました。また、好成績を収めた部もあり、ベスト4以上の結果を残した部もたくさんありました。川越市には公立中学校が22校あります。本校は2番目に生徒数の少ない学校です。その中で、これだけの活躍ができることは素晴らしいことだと思います。3年生にとっては中学校生活最後の大会となったはずの学校総合体育大会は行われませんでした。残念な気持ちをもっていることと思います。しかしながらその分、後輩に頑張ってもらいたいという気持ちも強く、後輩に託したメッセージが1・2年生の廊下に掲示されています。3年生も後輩の活躍をうれしく思っていることでしょう。

10月は生徒会本部役員選挙や例年ならば5月に行っている体育祭も計画しています。生徒たちは行事を通して、いろいろな人の考え方や行動を受けとめ、話し合い、これから自分が行うことを少しでも良くしていこうと努力していきます。その中で、人との関わり方を学んだり、絆を深めたりしていきます。望ましい人間関係を築くためにはそれぞれの気持ちをお互いに理解することが必要になります。そして、何か人の役に立ちたいと思う気持ちも必要です。そんな気持ちをもった生徒が本校には大勢います。

役に立たないという意味で名前を付けられたイヌタデですが、まだ花が付かない頃には天ぷらにしたり、おひたしにしたりして食べることができるようです。また、ビタミン、ミネラルが豊富に含まれる一方で、食あたりにも効果があるという説もあります。そんなイヌタデの花言葉は「あなたのお役に立ちたい」だそうです。